

みついし花き振興会におじゃましました

この度、北海道日高振興局管内からは、みついし花き振興会をご紹介します。花き集出荷作業中でお忙しい中、お話を聞きました。

《振興会概要》

新ひだか町（旧三石町）における花きの生産は、平成元年から6名で始められ、それと同時にみついし農業協同組合（旧：三石町農業協同組合）の下部組織として同会（旧：三石町花卉振興会）が設立されました。

また同年、町においても施設園芸を重点振興作物として位置付け、研究施設として、新ひだか町農業実験センター（旧：三石町農業実験センター）を設立するなど、産地化と新しい生産技術導入、普及を図るため各種試験に努めてこられました。

現在では、デルフィニウムを主体として、JAひだか東の生産者7戸とJAしずないの生産者5戸を含め、総計53戸にて、三石地区だけではなく日高全域での生産量拡大を推進しています。

《取扱花きとその状況》

平成7年からストック等の作付けからデルフィニウム中心の作付けに切り替え、本格的に道外市場への出荷が始まり、念願の1億円を突破しました。

翌、平成8年度には市場ニーズに即応するため、デルフィニウムの共同選別、平成12年度には、生産者全戸への予冷库導入、更に、平成16年度には生産者の新規参入等で目標にあった5億円の壁を大きく越える販売額となりました。

平成22年度の販売実績は、過去に経験の無い夏場の記録的猛暑などの天候不順も重なりデルフィニウム3億6千万円、リモニューム、施設花等、総計5億3千万円となっており、平成23年度も7～8月の高温等の影響で前年対比104～105%を見込んでおります。

《その他PR等まとめ》

振興会独自の取組として、平成15年度からは他産地にはない三石独自の花き出荷管理システムを導入しており、全戸パソコンを購入し、インターネットを通じて出荷状況・市場販売状況等を農協と生産者相互で常時情報交換をし、販売力の向上に役立っています。

その他の活動として、新ひだか町において、研鑽のため年1回品評会の実施、年3回札幌・東京・大阪市場において産地PR活動も実施しています。

また、平成17年度には、『第12回 ホクレン夢大賞 農業部門大賞』を受賞し、今年度は、平成16年に就農した振興会の生産者が新規就農優良農業経営者表彰最優秀賞（(財)北海道農業開発公社主催）を受賞するなど、益々の発展が期待されています。



（平成23年11月取材 日高振興局農務課）